

## 令和2年度第1回徳山高等学校学校運営協議会 記録

I 日 時 令和2年7月1日(水)午後2時から午後4時15分まで

II 場 所 徳山高等学校会議室

### III 参加学校運営協議会委員

委員13名中11名が参加。

### IV 学校参加者

校長、副校長、事務長、CS活動推進員

本校全日制：教頭、分掌課長・学年主任11名、CS担当

本校定時制：教頭、分掌課長3名、CS担当

徳山北分校：教頭

鹿野分校：教頭、分掌部長1名、

### V 会議概要(全体進行は副校長)

#### 1 学校運営協議会について

・資料に基づき学校から説明。

#### 2 会長及び副会長の選出

・学校運営協議会の設置等に関する規則第5条により、互選を求めたが候補者が出なかったため、事務局案を提示。全会一致で決定。

#### 3 議事(進行は会長)

##### (1) 学校経営方針について

・昨年度の学校評価を踏まえ、教育目標の内容や設定等の経緯について本校全日制、定時制、徳山北分校、鹿野分校について説明。

委員：自己評価というのは教職員による評価か。また、「連携が深まった」というのには定量制がない。

学校：そのとおり。学校評価アンケートの結果を踏まえてのもの。第三者評価による客観性のあるものとは違う。

委員：無理に定量化して点数を付ける必要はないだろう。課題をしっかりと踏まえ、内容をよく振り返り、PDCAサイクルを回してほしい。

委員：本年度は本校全日制の二大行事ができないということだが、生徒たちの様子はどうか。

学校：生徒は非常に落ち着いて勉学に取り組んでいる。二大行事ができないことについて大きな動きはないが、何か代替行事ができないかという意見はある。

委員：是非前向きに検討してほしい。

学校：今後どうなるかわからない。来年は行事の対応が可能かもしれない。

委員：生徒会アンケートにより、何かできないかという動きもあるので、検討してほしい。地域でも手伝えることがあれば動いていきたい。

委員：定時制において今の子どもたちは進路・就職についてどんなことを考えているのか。「自立」ということばが何度も出たが、どのようなことを考えているのだろうか。

学校：高校卒業という資格を取るの大事という認識。その上で何をするのか見いだすのは難しい。今と違う生活が見えない。見えていない生活を、学校の方でどう見せてあげ

るか、支援してあげるかが大切だと考えている。

- ・全会一致で承認

## (2) 学校評価書について

- ・今年度の学校評価書の内容等について本校全日制、定時制、徳山北分校、鹿野分校について説明。

委員：それぞれで学校の教育目標が異なるのはなぜか。

学校：それぞれの歴史と伝統を受け継いでおり、生徒の実態や保護者の期待、地域性も異なっている。そのところを大切にしている。

委員：内容的には変わらないので、一本化してはどうか。

学校：これまでは学校評議員会として別々だったので、違いや同じところが見えていなかった。

委員：既に県から徳山北・鹿野の両分校の募集停止が示されており、おそらく来年度には募集が止まる可能性が高いだろう。そうなった場合、3学年揃わなくなり、少人数であることのデメリットが顕在化する。学校運営をどのようにしていくか。

学校：募集停止については令和4年度までに検討と言われている。そうなった場合、徳山北分校の最終年度には生徒が3人だけということになる。座学の授業は一定のことができるが、行事をどうするかは課題である。地域行事への参加、両分校での合同開催、本校行事への参加等検討していきたい。

## (3) 地域連携の取組について

- ・昨年度の取組について本校全日制、定時制、徳山北分校、鹿野分校について説明。

委員：実施計画の中で、本年度様々な行事が中止となったことは残念だが仕方ない。中止となっているものについて代替は行うのか。

学校：地域と関わる中で密が避けられない等、難しいところがあるが、感染症対策を取りながら少しでもできたらよいと考えている。

委員：小中学校のCSの場合、地域との繋がりはわかりやすいが、高校でいう「地域」とはどのように考えるのか。

学校：地域は世界中どこでもいい。学校で決めたテーマに沿って、それに関わる所であれば、それがどこであれ連携していく「地域」となる。

委員：CSについて少しわかったような気がする。地域にどういう生徒を集めるか、そしてどういう風に送り出すか、そのどこに重点を置くかによって学校に対する評価は変わる。世界で活躍するということもあるが、卒業後、地元・山口県に帰ってくることも含めて指導してほしい。

委員：周南市教育長が「ふるさと」の「いつの日にか帰らん」を挙げて、一旗揚げて帰るというのではなく、今ここで活躍してほしいという話しをされるが、やはり地元で活躍する生徒になって欲しいと思う。

委員：義務教育ではCSが始まって9年目。ふるさとを愛する心の育成ということで、地元の「憧れる大人に会う」ということに取り組んでいる。また、最近の企業CMでも地元意識したものが増えているように思う。こうした中で、小・中学校のCSと高校のCSがどのようにつながるかが課題である。

学校：小・中学校との連携については今後進めていきたいと考えている。第3期を迎えたSSHのなかでそれに取り組めたらよいと思う。

委員：魁講座などはテーマが非常に興味深い。分校や定時制の生徒もぜひ聞けるとよいのではないか。

学校：希望者は参加できるようにしている。

委員：新型コロナウイルス感染症の影響で須々万の行事は全て中止となってしまう、徳山北分校の生徒との交流はできなくなってしまった。またやっていきたい。

委員：地域行事への参加となると三密は避けがたいかもしれないが、クラウドファンディング等を活用した地域医療への寄付事業なども取り組むことができるのではないか。

委員：新型コロナウイルス感染症を恐れているは何もできない。幸い山口県では収まっている。二大行事のうち運動会は屋外であり、生徒・保護者だけなら感染の心配もないだろう。ぜひやってほしい。勤務先には徳山高校の卒業生が多数いるが、そこでもぜひやってほしいという声は強い。

委員：中学校では運動会は開催する。

委員：ぜひやろうという声はたくさん届いている。学校運営協議会なのだから、ざっくばらんに言わせてもらった。

委員：修学旅行はどうなるのか。方面を変更して安心なところへぜひ行って欲しい。「Go to キャンペーン」は修学旅行にも適用されるから、ぜひ活用してほしい。県内の旅行代理店も大変疲弊している。

委員：徳山高校はOBのネットワークがしっかりしていて動いてくれる。そういう意味では元々CSとしての機能を有している。今後ともぜひ連携して取り組みたい。